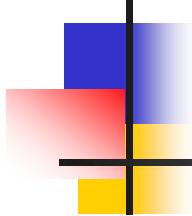


# 宮城県における 気候変動への適応に 関する取組

令和2年2月21日

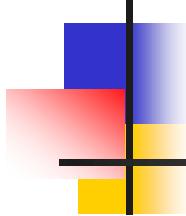
宮城県環境生活部環境政策課

高橋 央



# 地球温暖化対策に関する 事業の実施背景

- ・温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の進展
  - ・気候変動による影響の顕在化  
(農作物の品質低下, 気象災害の増加)
  - ・震災からの復興・復興に伴う温室効果ガス排出量の高止まり状況
- ⇒「待ったなし」の状況にあり、全庁を挙げて  
地球温暖化対策に取り組む必要がある



# 地球温暖化対策関連事業の 全体像

## I 推進体制の確保

(例: 推進員への支援、県民会議の運営)

## II 認知度の向上

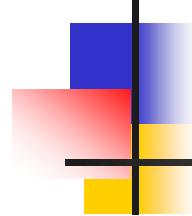
(例: 普及啓発イベント、気候変動適応推進事業)

## III 取組の促進

(例: 省エネキャンペーン、ストップ温暖化賞)

⇒「持続的な行動」を促し、

脱炭素社会の構築を目指す



# 気候変動適応推進事業の狙い

- ・「気候変動への適応」という考え方の認知度向上
- ・「気候変動への適応」の重要性の理解促進
- ・地域で適応策に取り組む人材の育成

⇒サイエンスカフェやシンポジウムといった取組を、  
**「気候変動適応推進事業」として業務委託に  
より実施**



# 取組① サイエンスカフェ

目的 気候変動影響の現状と取るべき適応策  
に関する認知を深める

対象 一般、大学生など

内容 有識者からの講演

グループディスカッション

日時 ①令和元年9月20日(金)

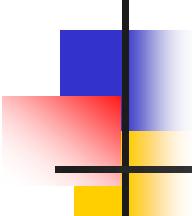
②令和元年12月8日(日)

# サイエンスカフェの様子



## ＜参加者の反応＞

- ・浸水予想地域の広さに衝撃を受けた
- ・適応策が考えにくい分野があった



## 取組② シンポジウム

目的 気候変動影響の現状と取るべき適応策  
に関する気づきを掘り起こす

対象 一般、事業者、自治体職員など

内容 有識者からの講演  
事例発表

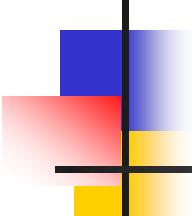
日時 令和元年11月21日(木)

# シンポジウムの様子



## ＜参加者の反応＞

- ・将来のことを考えると今何とかしないといけない
- ・「適応」についてもっと知る機会があってよい



## 取組③ ワークショップ

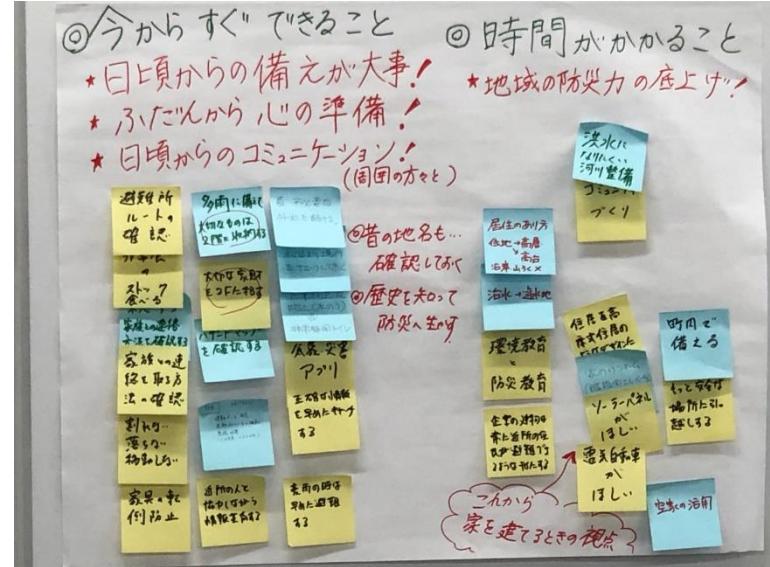
**目的** 気候変動への適応策を考え、自ら実践する人材の育成

**対象** 一般、事業者、自治体職員など

**内容** 有識者からの講演  
グループワーク

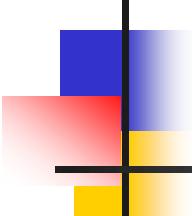
**日時** ①令和2年1月18日(土)  
②令和2年2月1日(土)

# ワークショップの様子



## ＜参加者の反応＞

- ・多様な立場の人がいたことで、新しい考え方につれてることができた
  - ・個人が実行できることをもっと教えてほしい



# 今後の課題

- ・適応への興味・関心を捉えて理解や認知を広げるための仕掛けづくり
- ・環境教育との連携など若い世代へのアプローチ
- ・地域レベルでの気候変動影響予測  
(例:沿岸部、内陸部、山間部)
- ・地域の主産業における影響予測  
(例:稻作、果樹、養殖水産物)
- ・地域適応センターの確保など推進体制の構築